

## ★ある日の岡崎さんの家の団らんの様子です。

- パパ** あー疲れた、ママ早くご飯にしてよ!
- ママ** あらっ! 私だって疲れてるのよ!
- パパ** でもご飯の支度はママの仕事でしょ!
- ママ** はいはい、わかりました。(私が我慢すればいいんだわ!)  
花子ちゃん、手伝って! 太郎くんはお勉強しなさい! あなたにはいい学校に入ってもらいたいから。
- パパ** 女の子は手伝いなさい!  
パパの会社でもお茶を入れるのは、隣の席の女の子の仕事だから! 彼女はいつも、パパの飲む缶コーヒーも買ってきてくれるし、宴会の時はお酌もしてくれるいい子だよ。でも、もう退職してしまうんだ。  
ご主人のお母さんが病気になられて、看病しなきゃいけないからね。  
もう一人の子は、女のくせに会議の時に発言が多くて可愛くない子なんだ。
- ママ** パパの会社はいろんな女の人がいるのね。
- パパ** 上司も女性だけど、女性の上司はやりにくいよ!
- 花子** へえーパパの会社のえらい人は女の人なんだ! 花子の学校でも、副会長の人は女子だよ。でも会長は男の子だよ。
- ママ** そうね、町内会でも必ず会長さんは男の人ね。そう言えば、明日は町内会の会合があるわ。
- パパ** 近所の付き合いはママの仕事だから、頼んだよ!
- ママ** はいはいわかりました。明日は、いとこの葉子ちゃんの入学祝いのランドセルを買いに行こうと思っていたんだけど…、葉子ちゃんは女の子だから、色は赤で良いわね! あの子は女の子のくせにいつもズボンをはいているし、行儀も悪いし、ことば使いも悪くて困るわ! お兄ちゃんは男のくせに泣き虫だし…

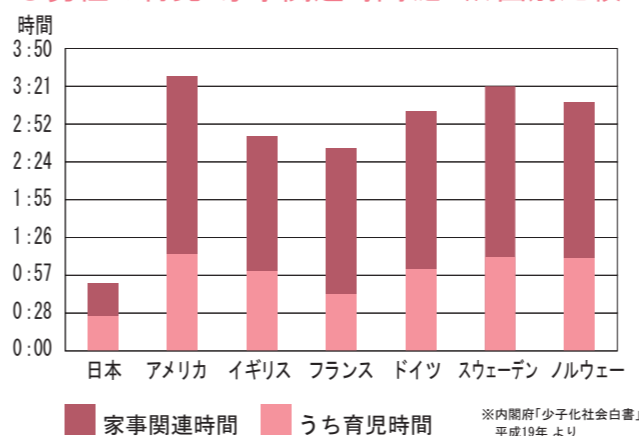


### クイズ?

Aさんが夕飯の支度をしていると、玄関のチャイムがなりました。手が放せなかったので、5歳の幹くんが対応しました。「お母さんは?」と聞かれたので「出かけていて、居ません」と答えました。なぜ幹くんは、こんなことを言ったのでしょうか?

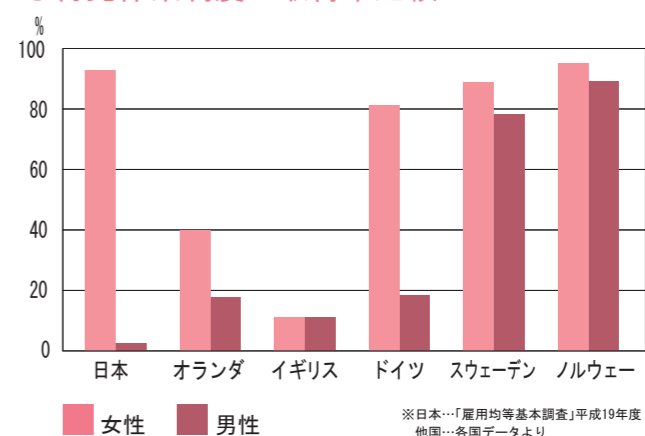
答え…夕飯の仕度をしていたのは「お父さん」。食事の支度をするのは女性の仕事と思っている人はいませんか?

### ●男性の育児・家事関連時間(週全体)国別比較



家事関連時間には、「家事」「介護・看護」「育児」「買い物」が含まれます。日本男性の家庭での活躍時間は、他の諸国の1/3ほどだと言えます。

### ●育児休業制度の取得率比較



各国ごとに制度の内容や関連制度が異なるので、単純には比べられないのですが、日本男性の取得率の低さは、明白ですね。

## ★なにげ無い会話のひとつですが、「あれっ!何か変だぞ。」って思われることはありませんでしたか?

男の子も女の子も自分に適した進路を選べるように勉強は必要だし、男女の別無く、ことば使いは良くしたいし、行儀も良いほうが良いですね。ましてや、泣くことは感情の表れです。

職場では、男女の別無く能力のある人は活躍すべきだし、当然、責任ある仕事が男性の仕事で、そうで無い仕事は女性の仕事ということはありません。地域の役員も学校の役員も、その役職にふさわしい人がやるのが一番良いのです。

上記の岡崎さんの家の団らんを、別に何の矛盾も疑問も感じない方は、幼いころから知らず知らずのうちに男女差別の意識が刷り込まれていることに気づいてください。

★このように生まれつきの性別(セックス)では無く、社会通念や慣習によって作りあげられた「男性像」「女性像」があり、このような男性・女性の別のことを「ジェンダー(社会的性別)」と言います。



## ★日本では「女性は家庭」、そして「男性は仕事」なのでしょう?

性によって役割は違うのだという考えを「性別役割分業」と言いますが、日本では1950年の朝鮮戦争を機に、政府は経済成長政策をとることになりました。利益を上げるためには、労働者(男性)の勤務時間を長くする必要が生じ、その労働者(男性)が回復し癒される場としての家庭と、それを維持・管理する女性が必要とされました。こうした歴史の中で、性の違いによつての役割の分担が、私たちの生活に溶け込み、習慣化されているのです。

これを、「性別役割分担」と言います。

しかし、人生を豊かにし、喜びをもって生きていくためには、「男は仕事」「女は家庭」という役割分担の思い込みから解放され、「仕事・家庭・地域」それぞれの領域で各自の持つ能力と個性を生かすことが大切です。

★社会の大きな変化とともに、人々の暮らし方や生き方も変わっていきます。男性、女性の別無く、働くことの意義、そして家庭での親のあり方を問い直してみませんか。子どもを育てることは母親だけの仕事では無いですし、そこから得られる喜びも、女性だけのものではありません。そして何よりも、子どもはお父さんもお母さんも大好きですし、お父さんが育児に関わってこそ、バランスの良い子育てができるのです。

